

1 小単元名 情報産業とわたしたちの暮らし

2 小単元について

本小単元は学習指導要領第5学年の内容(4)「我が国の情報産業や情報化した社会の様子について、次のことを調査したり資料を活用したりして調べ、情報化の進展は国民の生活に大きな影響を及ぼしていることや情報の有効な活用が大切であることを考えるようにする。」のA「放送、新聞などの産業と国民生活とのかかわり」を受けて扱うものである。

これまでに子どもたちは、「わたしたちの生活と食料生産」「わたしたちの生活と工業生産」の単元で、農業や水産業、工業の産業の様子を調べたり、地図を使って産業と国土の環境との関わりについて調べたりして、食料生産や工業生産の特色や貿易や運輸などの働き、産業に従事している人々の工夫や努力について学んできた。本小単元では、情報と自分たちの生活との関連について考える。現代社会において、わたしたちはテレビや、新聞、雑誌、インターネットなどの情報伝達手段によって多種多様な情報を得ることができる。これらの情報は生活の向上、充実ばかりでなく、諸産業の発展にとっても大きな役割を果たしている。これから、子供達が高度通信社会において主体的に生きていくためには、情報の有用性や役割、情報のもたらす影響について考えるとともに、情報の適切な収集や活用、発信や伝達などの能力を身に付けていくことが大切であると考え。以上のことから本単元では、テレビ番組を通して情報と生活との関連を具体的につかみ、目的によって自らの判断で情報を有効に活用しようとする力を身に付けさせていくことが必要であると考え。

本学級では、社会科の学習に対して意欲的に学習に取り組む子供が多い。写真やグラフなどの資料を見て、気付いたことをノート書いたり、班で意見や考えを話したりすることも前向きに取り組んでいる。話し合うことで、自分が気付かなかったことや友達と同じ考えだった時に喜びを感じる子供も多い。一方で、資料から読み取ったことと人々の工夫や努力を関連付けて考えることに苦手意識をもっている子供もいる。情報産業に関しては、主にテレビ番組から情報を得ていることが実態からわかった。また、テレビ番組の制作に関わる人については、アナウンサーやタレントなどは認識しているものの、見えない所で制作に関わっている人については認識が薄かった。常日頃、情報を受け取っているにも関わらず、その情報の送り手である放送局のテレビ番組について、制作に携わっている人やその工夫については知らない子供が多かった。

本小単元では、テレビ番組を制作する放送局で働く人々が様々な工夫をしていることに調べ、情報と生活との関連を具体的につかみ、目的によって自らの判断で情報を有効に活用しようとする力を身に付けさせたい。そこで、千葉テレビへの見学を取り入れ、情報に対しての興味関心を高めるとともに、放送局の番組制作や番組編成などの工夫や努力を知り、自分たちの生活との関連を具体的につかませたい。また、情報を受け取る側である自分たちがどのように情報を活用したらよいか考えさせる。データ放送でクイズに参加した経験や、天気予報を見て傘を持って出かけた経験などについて話し合い、身近な情報を活用していることを捉える。また、サッカーの日本対ウルグアイ戦の放送された動画を2つ見て、印象に違いが出たことを話し合い、1つの情報だけを信じるのではなく、複数の情報を見なければその情報に対して正しい判断ができないということに気付かせたい。また、千葉テレビのインタビューで発信者も正しい情報を発信する責任をもって行っていることを捉える。これらの学習を通して、目的によって自らの判断で情報を有効に活用しようとする力を身に付けさせたい。

3 知識の構造図

まとめる

中心概念
(概念的知識)

放送局では国民生活に必要な情報を、はやく正確に伝えたり、見る人に合わせて番組の編成を工夫したりしている。わたしたちは、必要な情報を選んで生活に生かすことが大切である。⑦

社会的事象
(具体的知識)

放送局では、東日本大震災の情報を、はやく正確に伝え、報道の使命を果たすようにした。
①
②

放送局では、ニュース番組を短い時間で正確にわかりやすく伝える工夫や、緊急時に現地からはやく正確に情報を伝える工夫を行っている。
④

放送局では、テレビの番組を、視聴者が見る時間帯に合わせて編成している。
⑤

情報化の進展にともなって、放送局の発信者としての責任と受け取る側の正しい判断が一層求められている。
⑥

用語・語句

- ・東日本大震災
- ・放送局
- ・キー局とローカル局

- ・緊急特番

- ・番組編成

- ・双方向
- ・報道被害

問題解決的な
学習の過程

つかむ

調べる

※③は千葉テレビ見学のため、具体的知識なし。

4 小単元の目標

- 放送などの情報産業が国民の生活に大きな影響をおよぼしていることや、情報産業を通じた情報の有効な活用が大切であることを理解することができるとともに、情報産業の発展に関心を持ち、情報を有効に活用しようとする。
- 日本の情報産業の様子から学習問題を見だし、資料やインターネットなどを活用して必要な情報を集めて読み取ったことを、ノートなどにまとめるとともに、放送などの情報産業と国民生活とを関連付けて思考・判断したことを、適切に表現する。

5 単元の評価規準

観点	評価規準
社会的事象への 関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ○ 情報を提供している産業と国民生活の様子に関心を持ち、意欲的に調べている。 ○ 情報産業の発展に関心を持ち、情報を有効に活用しようとしている。
社会的な 思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○ 放送などのマスメディアを通して情報を提供している産業と国民生活とのかかわりについて、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。 ○ 情報産業の様子と国民生活とを関連付けて、情報産業の働きは国民の生活に大きな影響をおよぼしていることや、情報の有効な活用が大切であることを考え、適切に表現している。
観察・資料活用の技能	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料やインターネットなどを活用し、日本の情報産業について必要な情報を集め、読み取っている。 ○ 日本の情報産業について調べたことを、ノートや新聞などにまとめている。
社会的事象についての知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ○ 放送などの産業と国民生活とのかかわりを理解している。 ○ 情報産業が果たす役割の大切さと情報の有効な活用の大切さを理解している。

6 指導計画（7時間扱い）

	時	学習活動と内容
つかむ	1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 東日本大震災が発生したとき、放送局が情報を伝える番組を見て、どのようにして情報を伝えたのか考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ テレビ局がいち早く情報を伝えていた。 ・ 津波から身の安全を守るよう伝えていた。 ・ ラジオは揺れている最中に避難を呼びかけていた。 ○ できるだけ速く情報を伝えることができたわけを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 普段からの備えがあったからではないか。 ・ 人のために役立つとする使命感があったのではないか。

	2	<p>○ 放送局は震災後の被災地の様子をどのようにして伝えたか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 被害の大きかった宮城県気仙沼市に臨時支局を開設していた。 ・ 現地に足を運んで、番組づくりに生かしていた。 <p>○ 情報を伝える人々の工夫や願いについて予想し、学習問題を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どれくらいの人がどんな仕事をしているのかな。 ・ ニュース番組はどうやってつくっているのかな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>放送局では、どのようにして番組をつくり、わたしたちは放送局が伝える情報を、どのように活用したらよいのだろうか。</p> </div> <p>○ 学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どのように番組をつくっているか。 ・ どのようにテレビの番組を決めているのか。 ・ テレビの情報をどのように活用すればよいのか。
調 べ る	3	<p>○ 千葉テレビの見学に行き、放送の仕組みについて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 番組をつくるにも、たくさんの人が関わっている。 ・ テレビ放送が見られるのは、電波を使っているからなんだ。
	4	<p>○ ニュース番組がどのようにつくられているかを調べ、番組づくりの工夫を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報収集から放送されるまで、編集会議や取材などいろいろなことをしている。 ・ 短い時間で正確に伝えるために、たくさんの人が何日もかけて準備している。 ・ 取材や放送のときは、人権や公平、公正さに気を配っている。 <p>○ 緊急時に放送局で心がけていることを調べる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ よりはやく正確な情報の収集し放送するために、現地で取材をしている。 ・ アナウンサーは、短い時間で正確にニュースを伝えたいと考えていたり、被害をできるだけ少なくしたいという願いをもって伝えていたりする。
	5	<p>○ 新聞のテレビ欄と自分と保護者の生活時間の関連を調べ、番組編成の工夫を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ニュースは、1日に何度も放送されている。 ・ 朝の時間帯はニュースや天気予報が放送されている。 ・ テレビ番組は、視聴者が見る時間帯に合わせて編成している。
	6 本 時	<p>○ 生活経験や資料から活用の仕方を考えたり、サッカーについて報道された2つの動画を見て、印象に違いがでた理由を考えたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 天気予報を見て、傘を持って学校に行ったことがある。 ・ dボタンを使うと、自分の知りたい情報を得ることができる。 ・ いくつかの情報を見ると、その情報に対して受け取る側の印象が変わる。 ・ 放送局も責任放送している。
ま と め る	7	<p>○ 学習問題に対するまとめ新聞に書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>放送局では、はやく正確な情報を伝えたり、見る人に合わせて番組の編成をしたりして工夫している。また、わたしたちは情報を必要なものだけ選んだり、見比べたりして正しい判断をし、生活に生かすことが必要である。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 放送局の工夫や努力、情報を受け取る側の気を付けることなど、学んだことを各コーナーに分けて、まとめる。また、情報とどのように関わっていくか自分の考えを社説で書く。

7 市教研社会科研究主題解明のための方策

市教研社会科研究主題

変貌する未来を切り拓く社会科学習 ～手応えの発見につながる『深い学び』の探求～

<本年度主題解明のための方策>

研究内容1 「深い学び」に導く単元づくり

研究内容2 「深い学び」に導く授業づくり

本小単元では、研究主題の中から次の点に留意して指導及び評価に取り組んでいきたい。

研究内容1 「深い学び」に導く単元づくり

○ 社会との関わりを意識させる単元構成の工夫

本小単元では、情報産業と国民生活とのかかわりについて、見学や各種の資料を効果的に活用して具体的に調べたことを自分たちの生活と関連付けて考え、目的によって自らの判断で情報を有効に活用しようとする力を身に付けさせたい。子供の主な情報源がテレビ番組という実態から、単元を通してテレビ番組を発信する放送局を題材として単元を構成した。

本小単元の「まとめ」では、情報が自分たちの生活と密接にかかわっていることを新聞にまとめさせたい。そのためには、情報の送り手である放送局の仕組みや役割を理解しつつ、情報を伝える工夫や努力、情報の送り手と受け手には責任があるということも理解する必要がある。そこで単元の導入では、東日本大震災発生時の緊急放送の映像を見せ、放送局がどのようにいち早く情報を発信していたのか、大震災のその後の様子を伝えるためにどのような工夫をしているのか、放送局が情報を伝えるための工夫や努力について問題意識をもたせる。放送局の工夫や努力を調べるために千葉テレビへの見学を取り入れ、放送局を身近に感じることができる。さらに、現場の生の声を聞くことでそこで働く人々の工夫や努力を捉えることができると考えた。見学を振り返りながら、ニュース番組の制作について調べ、テレビに映っていない多くの人々の働きで番組づくりが行われていることを理解させたい。また、番組編成について調べる学習では、テレビの番組表と自分や保護者の生活時間を表で表したものを比較し、関連付けて考えることで視聴者のニーズに込んでいることを捉えさせたい。これまでの放送局の学習を踏まえて、受け取る側の自分たちは情報をどのように活用したらよいか考える。実際にテレビをつけ、dボタンを活用して自分の知りたい情報をすぐに見られることやクイズ番組に参加できるなど、活用の仕方について考える。また、サッカーの日本代表対ウルグアイ戦の中継や報道の2つの動画で見せる。1つ目の動画を見た時のウルグアイ選手の印象と、2つ目の情報を見た時のウルグアイの選手に対する印象になぜ違いがでるのか話し合う。情報を1つ見ただけで信じるのではなく、複数の情報を見たり、ほかの媒体の情報と比べたりして、正しい判断をしなければいけないことを理解させたい。これらの活動を通して「まとめ」では、放送局の働きや工夫、情報の受け取り方などに見出しをつけて新聞に書き、これから情報をどのように活用していくか社説にまとめる。

○ 矛盾やジレンマをもたせる資料の工夫

本時までに、ニュース番組を放送するまでの仕組みについて学び、情報を送る側の放送局についての理解が深まっている。また前時には番組編成の学習で、テレビ番組の放送時間と自分たちの生活とを関連付けて考えることで、放送局が自分たちに合わせてテレビ番組を放送していることに気付いた。これまでは、情報の送る側である放送局の工夫や努力について学習してきた。

本時では、テレビ番組の情報を有効に活用して自分の生活を豊かにできることや、見た情報を鵜呑みにせず、いくつかの情報や違う媒体の情報を見て判断をすることが大切だということを理解させたい。そのために、テレビ番組の情報を見て、自分の行動を変えた経験を話し合ったり、実際にdボタンを見たりして、情報の活用の仕方について考える。また、サッカーの日本代表対ウルグアイ戦の中継の様子や試合後の報道の動画を見て、ウルグアイの選手の印象について話し合う。中継の様子は「試合終了後、ウルグアイの選手が握手をしないまま帰る」シーンで、ウルグアイの選手に対して「ひどい。礼儀がない」とマイナスの印象をもつことが考えられる。その次に、試合後の報道で、「試合終了後に日本の選手に笑顔で声をかける」シーンを見せる。1つ目の動画でマイナスな印象を感じる一方、2つ目の動画で「日本の選手にフレンドリーだ」というプラスの印象をもつことが考えられ、「少し印象が違うな」と、子供の中で矛盾が生まれる。情報を送る側の内容や編集次第で、受け取る側の印象が変わってしまうことを実感できると考えた。また、自分が見た情報が全てではないことを理解し、自分たちの判断で情報を活用しなければならないことまで考えさせたい。また、放送局側も正しい情報を送る責任があることを、千葉テレビの方のインタビューを見て知ること、情報を送る側も受け取る側も情報の扱いに責任をもたなければならないということを理解させたい。

8 本時の展開 (6 / 7)

(1) 本時の目標

情報産業の様子と国民生活とを関連付けて、情報産業の働きは国民の生活に大きな影響をおよぼしていることや、情報の有効な活用が大切であることを考え、適切に表現することができる。
(思・判・表)

(2) 本時の展開

時配	学習活動と内容	教師の支援 (○) 評価 (☆)	資料・教具
3	1 前時までの学習を振り返り、めあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">わたしたちはテレビの情報を、どのように活用していけばよいのだろうか。</div>	○受け取る側について考えることを確認する。	前時までの掲示物
5	2 学習問題に対する予想を考える。 ・天気予報を見て、傘をもったな。 ・たくさんの情報を見る。	○テレビの情報で自分たちの行動が変わったことを想起させる。	
12	3 テレビの活用の仕方についてノートに考えを書く。	○dボタンを使うと様々な情報を取得できることを全体で確認する。	テレビ (dボタン)

15	<p>・いつでも天気予報やニュースが見られるのは便利だな。</p> <p>・見るだけでなく番組に参加することもできるよ。</p> <p>3 テレビで放送した動画を2つ見て気付いたことを話し合う。</p> <p>・握手しないで帰るのはひどい。</p> <p>・悔しかったから握手をしなかったのかもしれないけど、礼儀がないな。</p> <p>・カバーニ選手は礼儀正しいな。</p> <p>・途中までしか見なかったから印象に違いがでたのかな。</p> <p>・いくつかの情報を見ないといけないな。</p> <p>・いくつかの情報を見て、正しい判断をしないといけないな。</p> <p>3 4 千葉テレビのインタビューを聞いて、放送局が気を付けていることを知る。</p> <p>・偏った考えにならないようにしている。</p> <p>・正しい情報を発信する責任があると saying it na.</p> <p>7 5 今日の学習をまとめる。</p> <p>◎キーワード</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・必要な情報を選ぶ。</p> <p>・1つの情報をうのみにしてはいけない。</p> <p>・いくつかの情報を見比べる。</p> <p>・正しい判断をする</p> <p>・正確な情報を発信する責任</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>わたしたちは情報を見比べたり必要なものだけを選んだりして正しい判断をしなければならない。また、放送局も正しい情報を発信する責任がある。</p> </div>	<p>○双方向をしている資料を提示して、情報を受け取る側が発信できることを確認する。</p> <p>○サッカーの「日本対ウルグアイ」の試合後の中継を見せ、ウルグアイの選手にどのような印象をもったか全体で話し合う。</p> <p>○その後の報道を見せ、ウルグアイの選手の印象について班で話し合わせ、なぜ違いがでたのかまで話し合うよう助言する。</p> <p>○情報を受け取る側が大切にしなければならないことについて考えるよう助言する。</p> <p>○テレビの報道によって被害を受けた事例を紹介する。</p> <p>○放送局が情報を発信するときにどんなことに気を付けているかに注意して視聴するように助言する。</p> <p>○情報を活用するために、放送局と受け取る側が気を付けることを全体で確認してから、各自でまとめを書かせる。</p> <p>☆情報産業の様子と国民生活とを関連付けて、情報産業の働きは国民の生活に大きな影響をおよぼしていることや、情報の有効な活用が大切であることを考え、適切に表現している。</p> <p style="text-align: right;">〈発表・ノート〉(思・判・表)</p>	<p>双方向の資料</p> <p>映像資料 (握手しないシーン)</p> <p>(カバーニ選手が称えるシーン)</p> <p>報道被害の記事</p> <p>インタビュー資料</p>
----	--	---	--

